

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

偶然と想像 第2話 扉は開けたままで

2021年/日本映画
配給: Incline/約40分

2021(令和3)年12月29日鑑賞

シネ・ヌーヴォ

Data

2021-155

監督・脚本: 濱口竜介

出演: 渋川清彦/森郁月/甲斐翔真

👁️👁️ みどころ

今はセクハラやパワハラが横行する時代状況だが、どちらが加害者で、どちらが被害者? そんな事例も多い。すると、その防止のためには、「扉はあけたままで」がベスト・・・?

ハニートラップの逸話は、『三国志』で董卓と呂布を離反させるべく、美女“貂蝉”が魅せる、“連環の術”が有名だが、本作第2話に見るハニートラップとは? その会話劇を興味深く見ていると、なるほど、なるほど・・・。

他方、物語は思わぬミスで思わぬ展開に……。こりゃ悲劇? それとも喜劇?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■このタイトルに納得! 今はこんな自衛手段が不可欠! ■□■

第2話のタイトル「扉は開けたままで」は、「密室(状態)」を避けるための手段だが、文学部の教授で、芥川賞の受賞作家になった瀬川(渋川清彦)は、なぜいつも扉を「開けたままでお願いします」と言っているの? それは本作冒頭、瀬川の研究室で土下座しながら単位を懇願する男子生徒・佐々木(甲斐翔真)を頑なに拒否する瀬川を見ればよくわかる。カメラや録音機器が進歩し、スマホさえあれば何でもできる今の時代、二人だけの密室の中で、「セクハラだ!」「パワハラだ!」と訴えられたら・・・? そう考えると、瀬川のささやかな自衛手段には、なるほど、なるほど・・・。

■□■ハニートラップの動機は? 手法は? ■□■

第2話のメインは、瀬川のゼミ生である主婦の奈緒(森郁月)が瀬川にハニートラップを仕掛けるストーリー。ハニートラップの仕掛け方はさまざまだが、本作のそれは、50代にして芥川賞を受賞した瀬川の著書に「サインを頂けないかと思って」と奈緒が瀬川の研究室に入って来るところから始まる。奈緒が考えついた方法は、瀬川の小説の官能的な部分を朗読することによって、瀬川の「劣情を催させよう」というものだが、そのために

はドアを開けて二人だけの密室にする必要がある。そこで、研究室に入った奈緒は官能的なシーンの朗読を続けながら研究室の扉を閉めたが、瀬川は朗読を邪魔しないようゆっくりとドアノブに手を掛け、やはり扉を開けたからアレレ。奈緒の企みは見事に失敗・・・？

その展開は興味深い、第2話の脚本の弱点は、第1にハニートラップの動機を、単位をもらえなかった佐々木の復讐のため、としていること。第2に奈緒と佐々木が不倫関係にあることだ。奈緒のような魅力的な主婦が、なぜ佐々木のようなアホ学生と不倫関係に・・・？

■□■朗読だけで劣情を？いやいや、この恍惚感は？■

若くて精力旺盛な青年男子なら、芥川賞受賞作のような高尚な文学よりも、川上宗薫や富島健夫のような、いわゆる官能小説の方が好きなはず。それを目で追っているだけでも興奮してくるのだから、若く美しい女性が、美しい声でそんな官能小説の官能シーンを朗読してくれれば、それだけで大興奮・・・？それは、若い男だけでなく、中年の瀬川教授でも同じはずだ。奈緒はそう判断して、そんなハニートラップを仕掛けたわけだが、さて瀬川は？

「私はずっと先生のことを誘惑していたと気づいていますか？」と述べた上で、朗読を終えた奈緒が、会話を録音し、それをメディアに売ろうとしていたことを明かすと、さすがの瀬川も取り乱したからシメシメ。ところが、それは奈緒の企みが成功したためではなく、自分の小説の官能的なシーンが美しい声で朗読されるというはじめての体験に恍惚としていたためだそうだから、アレレ・・・。男はなんとも難しいものだ。

その結果、せっかく奈緒が完成させた官能シーンの録音データは陽の目を見ることなく、瀬川のパソコンに回収されることに・・・。2人の会話は「扉は開けたまま」の教授室でなされていたから、あの録音データが瀬川のパソコンに回収されれば、校内の不祥事は一切なし。そんな“想像”が成り立つはずだったが、現実意外にも・・・。

■□■一字違いで大違い！メールの誤送信は命取り！■□■

映画は便利な芸術だから、中盤のハイライトが終わると、スクリーン上は一気に5年後に進む。バスの中に座っている奈緒の隣に近づいてきた男は、偶然同じバスに乗り合わせた佐々木だが、今は同じ出版業界に就職しているという偶然が面白い。暗く沈んでいる奈緒に対して、佐々木は悪びれることなく面白そうに5年前のメール誤送信の話題を持ち出したが、あの時、“segawa”の宛先を“sagawa”として大学の事務宛に誤送信されたメールによって、瀬川は一体どんな運命に？

奈緒はそのことに責任感を負ったまま、この5年間を生きてきたが、今、佐々木と出会った奈緒の行動はあっと驚く意外なものだから、それに注目！なるほど、なるほど・・・。

2022（令和4）年1月25日記